

坂戸工作所②

北野清志の「元氣が行く」

現場リポート・元氣印経営の秘密

「ドスーン ドスーン」「ガラガラ ドスーン」一九六〇年代から七〇年代にかけて、ビルや大きな丸い大きな鉄の塊、スチールボール（鉄球）や空気圧で作動する大型ブレーカーと油圧ショベルを組み合わせて、壁や建物を壊し、転倒させる方法が一般的だつた。

鉄球工法は、七二年一月に連合赤軍の一昧が立てこもった「あさま山荘」を攻撃するときにも使われたことで有名だ。米国から導入された工法

「ドスーン ドスーン」と大型クレーンを使い重さ一トンの鉄球を振りまわす。鉄球をつるすワイヤー

どうする圧碎部形状

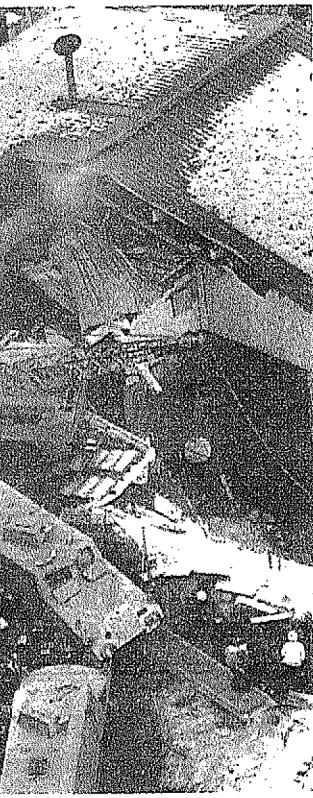
のだった。

七〇年代後半に入り、工事現場では解体作業の安全確保周辺環境への配慮が大きくクローズアップされ大きくなってしまった。低騒音、低振動で、しわを得られる油圧式が普及し始めた。大型ブレーカーと比べて騒音も低く、強いパワーを得られる油圧式が普段は、ちょうどこのころだ。

の高い方法は」と新しい解体機械の開発に乗り出したのは、ちょうどこのころだ。低騒音、低振動で、しかも、より効率的な解体機が油圧式に切り替わった。坂戸工作所の坂戸誠一が

「もうと安全で、作業効率化のため、大型ブレーカーは

コンプレッサーから送られる圧縮空気の反発力により、ノミの頭を急速な繰り返し衝撃力でたたき、コンクリートを突き崩す仕組みだから、「ガ、ガ、ガ、ガ」と大変な騒音と振動力を発する。とにかく解体工事にはひどい騒音、振動、粉塵（ふんじん）がつきも



重さ1-3tのスチールボール（鉄球）による解体工事は、72年2月の「あさま山荘」事件でも有名になった

（論説委員長）

《坂戸工作所》
社長=坂戸誠一氏
住所=千葉市花見川区
☎043・259・0131
業種=解体機械製造業
資本金=5720万円
設立=1945年4月
従業員数=30人
年間売上げ=9億円